

ネパール経済ニュース (17年6月) ヘッドライン

経 済	
産業 エネルギー インフラ	<p>(1) 4日、シャルマ・エネルギー大臣(当時)は、Lv Zeiang CGGC会長とブディガンダキ水力発電所建設に係るMOUに署名した。これによって、ネパール政府は、競争入札無しに、ブディガンダキ水力発電所建設をCGGCに実施させることを承認したことになる。</p> <p>(2) 18日、ネパール国内での電力発電量が増加したのを受け、インドからの電力輸入が先月に比べて16%減少した。</p>
金融 財政 税制	<p>(1) 2日、権力濫用調査委員会(CIAA)は、民間企業の税金を不正に免除した疑いで、シャルマ税務局長を逮捕した。</p> <p>(2) 4日、当地通信業者であるNcellは、これまでに236億ルピーのキャピタルゲイン税を支払ったことがわかった。ネパール政府は、残りのキャピタルゲイン税の支払いも同社に求めている。</p> <p>(3) 10日、ネパール中央銀行によると、2016/17年度当初10ヵ月における海外送金受け取り額が前年同期比4.8%増の5,669.7億ルピーとなった。</p> <p>(4) 12日、スイスの非営利財団である「世界経済フォーラム」は、2017年の経済成長率の国別ランキングにおいて、エチオピア(8.3%)、ウズベキスタン(7.6%)に次いでネパール(7.5%)が3番目であることを発表した。</p> <p>(5) 15日、商業省によると、今会計年度当初10ヵ月における貿易赤字は、前年同期比35.4%増加し、7,461.8億ルピーとなった。</p> <p>(6) 17日、残り約1ヶ月となった今会計年度の予算執行済み状況に関して、財務省は、17日現在で予算のうち「資本支出(capital expenditure)」の執行済み状況は38%であると発表した。</p> <p>(7) 19日、国際農業開発基金は、2016年の海外送金受け取り額の対GDP比について、ネパールが世界で最も高く32%となったことを公表した。タジキスタン29%、キルギス26%がこれに続く。</p>
雇用 物価	<p>(1) 9日、中東における外交関係の緊張を受け、ネパールからカタールへ出稼ぎに行くための海外労働許可の件数が減少した。</p>
貿易 投資 観光	<p>(1) 4日、新「外国投資・技術移転法」が閣議を通り、立法議会に送られた。</p> <p>(2) 4日、ネパール・南アジア諸国間の貿易赤字が拡大し、今年度当初9ヵ月では4,440億ルピーとなった。</p> <p>(3) 7日、広州、杭州、成都、北京において、Nepal Association of Tours and Travel Agents、ネパール観光庁、在中国ネパール大使館共催の「Nepal China Sales Mission 2017」と題したネパールの観光プロモーションが順次、実施されることになった。</p>

	<p>(4) 13日、第三国からインドのビジャカパトナム港を經由してネパールに初めてコンテナが輸送された。</p> <p>(5) 15日、ムスタン郡コアラ国境ポイントの中国側において、ネパール・中国貿易フェアが開催された。10日間の開催期間、同国境ポイントは開通することになる。</p> <p>(6) 16日、今会計年度において、産業局に外国投資を登録したのは446社、コミットメントされた投資額は1,483.1億ルピー（前年同期比37%増）となった。</p> <p>(7) 18日、カルキ財務大臣は、韓国で開催されたA I I B第二回理事会に出席すると共に金立群A I I B総裁と会談した。カルキ財務大臣は、金総裁に対して、ネパールが融資を申請した6つのプロジェクトに関して、早めの決定を下すように促した。金総裁は、6つのうち2つのプロジェクトの融資を検討している旨述べた。</p> <p>(8) 21日、貿易輸出振興センターによると、今会計年度におけるネパールの対インド貿易赤字額は過去10年間で最大となる見込み。主に、インドからの石油製品、鉄鋼、自動車などの輸入が増えたことが原因。</p> <p>(9) 19日、チベット航空は、カトマンズ・成都間の国際便の就航を開始した。チベット航空の他、中国国際航空、中国東方航空、中国南方航空、四川航空が中国の各都市とカトマンズ間の国際便を運航しており、中国系航空会社合計で一週間に55便運行することになる。</p> <p>(10) 24日、ネパール中央銀行によると、2016/17年度当初10ヵ月における海外直接投資のインフローは116.1億ルピーとなり、前年同期比で約2倍、また、過去10年間で最も高い数字になった。</p>
地域経済	<p>(1) 2日、マハラ副首相兼財務大臣（当時）は、ゴウタム・ブッダ国際空港が2019年に完成する見込みである旨述べた。</p> <p>(2) 12日、ネパール電力公社（NEA）は、ルパンデヒ郡バイラワ経済特区における電力需要が10MWであるのに対し、送電線がないため、必要な電力を供給ができていない旨述べた。</p> <p>(3) 25日、ポカラ国際空港の建設が、第2回地方選挙終了後の6月29日から開始する。しかし、本格的な建設はモンスーン後に行う見込み。</p>